

# 第4章

## 景観計画の区域

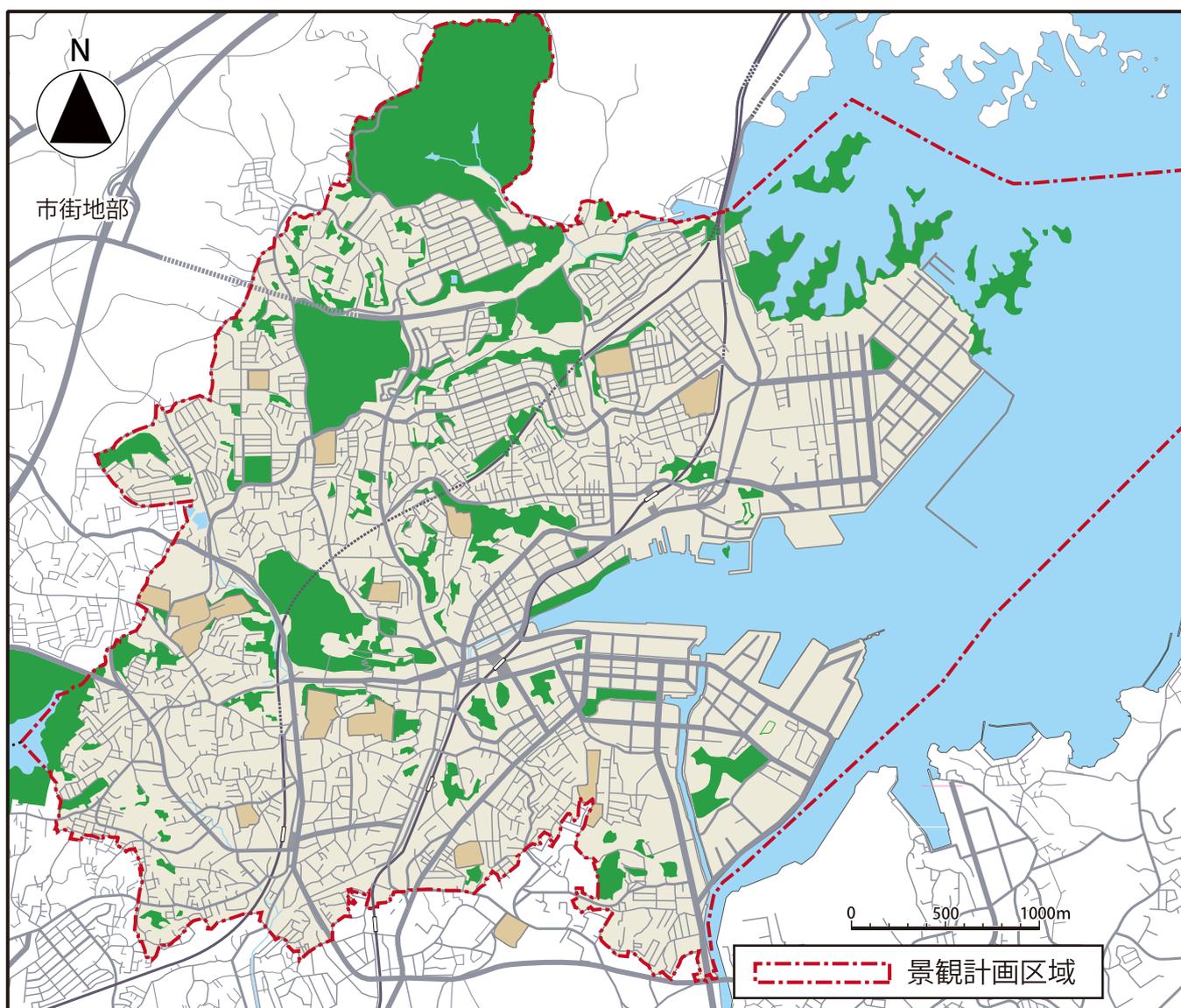
### 1 景観計画区域の設定



## 第4章 景観区域の設定

### 1 景観計画区域の設定

本市は、貴重な景観資源を数多く有しており、それらが一体となって独自の景観を形成していることから、将来においても塩竈らしい良好な景観の形成を目指すため、市内全域を景観計画区域として定めます。

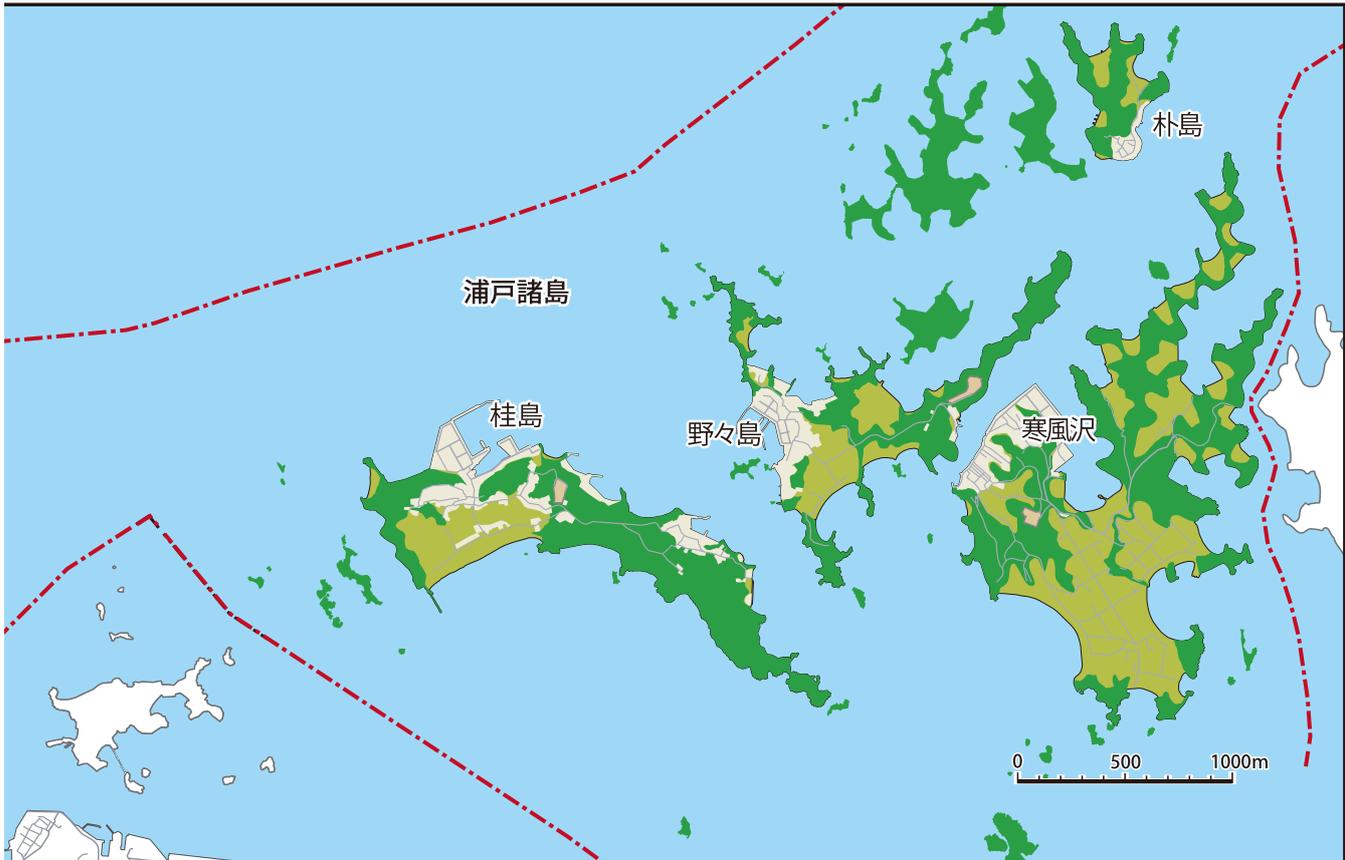




東北本線（塩釜線）  
塩釜駅（塩釜港駅）  
明治20年開業



現在  
仙石線  
本塩釜駅



塩竈市本土



浦戸諸島



## 景観コラム『景観十年、風景百年、風土千年』

### 校章にもなっている「塩竈の水辺景観」

浦戸を除く市内小中学校の校章は、塩竈桜をモチーフとしています。玉川中学校の校章は異なっているのをご存じですか。

6つの黒点は「六玉川」を、後方の黒大丸は「野田の玉川」を表し、さらに6枚の花びらは白菊を意味しているそうです。

「六玉川」とは、野田の玉川(塩竈市)、井手の玉川(京都府)、野路の玉川(滋賀県)、高野の玉川(和歌山県)、調布の玉川(東京都)、玉川の里(大阪府)という、歌枕で有名な全国6カ所の「玉川」の総称です。

その一つである「野田の玉川」は、母子沢

から多賀城市の砂押川に至り、噴水玉のごとく飛散してわき出ることが名の由来といわれています。

元禄2(1689)年5月8日、松尾芭蕉は「野田の玉川」のほとりに佇み、末の松山への道を歩いていきました。また、玉川一丁目には、能因法師の「夕されば潮風越してみちのくの野田の玉川千鳥鳴くなり」の歌を刻んだ「野田の玉川の碑」と祠があり、往時をしのぶことができます。

現在はコンクリートの水路ですが、由緒あるものと分かれると、誇りや愛着がわいてきませんか。

【参考文献：塩竈市史本篇Ⅰ・資料編Ⅰ、塩竈市の文化財ガイド】



◀左)玉川中学校の校章  
右)野田の玉川の碑

問 都市計画課まちづくり推進係 ☎364-2510

広報しおがま平成27年8月号掲載

## 景観コラム 『景観十年、風景百年、風土千年』

### 往事を物語る「塩竈の古道景観」

彼岸も近づき、お墓参りする人も多い時期ですが、月見ヶ丘霊園前の道が「野中大道」という古道であることをご存じですか。

古くから利府町の加瀬地区には、社人と呼ばれた鹽竈神社の神職が多く住んでおり、江戸中期から明治初年の記録では、社人二十九家のうち十五家が住んでいたほどです。「野中大道」は、社人が神社へ赴く道筋で、現在の加瀬野中沢から当地を通り、赤坂町内を抜け、塩釜高校校庭の鳥居原を経て、神社へ至るものでした。往事、社人はどのような出で立ち、人数で行き来したのでしょうか。

なお、市内には、「塩竈甚句」に登場する「塩竈街道(仙臺街道)」をはじめ、ゴルフ場の松並木に面影が残る「松島街道」など、数多くの古道があります。いつも歩く道が、実はとても古いと分かると、違った風景に見えてきませんか。

【参考文献：塩竈市史本篇Ⅰ・Ⅱ、利府町誌】

問 都市計画課まちづくり推進係  
☎364-2510



▲「野中大道」の道筋・月見ヶ丘小学校前

広報しおがま平成27年9月号掲載